

境界線のない世界へ

阿南第二中学校 二年

清 美玲
せい みれい

(敬称略)

私の母親は中国人です。兄も姉も中国国籍です。私は、兄妹のなかで、唯一、日本国籍です。しかし、私は家では、中国語と日本語の両方を使い、中国の食べ物も日本の食べ物も当たり前のように食べて育ちました。私にとって、それが「ふつう」の毎日です。

私が小学校一年生だった時に言われたある言葉が今も心に引っかかっています。それは、「日本人なら日本人らしくしたら？」という言葉です。私は言葉を無くし、言い返すことはできませんでした。「らしく」とはなんだろう。私は日本人として不完全なのだろうか。そう思うと自分の何かが否定された気分になりました。

他にもテレビやSNSでは中国を否定するような情報ばかり。家でも姉の話の聞くと仕事場で「きちがい」や「中国に帰れ」と言われたらしく、すぐ落ち込んでいました。それを聞いて中国を良く思わない人がこんなにもいるんだなと思いました。私は日本の学校に通い、日本語を話し、日本の友だちと一緒に過ごしています。それでも「日本人らしくしたら」と言われるのはとても悲しいことです。

でも、時間が経つにつれ私は、「半分の日本人」や「半分の中国人」でもなく、「両方を持った一人の人間」ということに気づき始めました。私は日本人として不完全なのかもしれない。それでも自分らしく生きること、それを、何よりも大切にしています。

人は見た目や国籍、話す言葉だけでは判断できません。一人一人、背景や価値観が違っていて当たり前です。「○○らしく」と決めつけることは、その人の大切な一部分を無視することになるのだと、私は気づきました。

「日本人なら日本人らしくしたら？」という言葉には、相手の勝手な期待や偏見が詰まっています。それが私のアイデンティティを否定するかたちになってしまいます。そんな言葉を投げかけられても、自分は日本人でもあり、中国人でもある。そのどちらも私をつくっている大切な一部です。誰にもそれを否定する権利はありません。人にはそれぞれの個性があり、たくさん生き方があります。それを「○○らしく」と決めつけることはその人の存在そのものを狭くしてしまいます。人は誰もが「型」にはまる必要なんてないはずですよ。

「日本人なら日本人らしくしたら？」という言葉。それは言った人にとってはその一言だったのかもしれない。でも、それを聞いた私の心に深く残りました。だからこそ私は強く断言します。言葉には力があります。相手を勇気づけることもできるし、傷つけることもあります。私自身も誰かに何かを言うとき、その人がどのような背景をもち、どんな気持ちで生きているのかを想像できる人でありたいと思います。

これから先、私と同じように悩む人がいるのなら、私はこう伝えたいです。

「ありのままの自分を見せて生きようよ。」

自分を守り、自分を信じること。それはとても勇気のいることだと思います。ですが、この社会で生きるかぎり、何よりも大切なことだと思います。

私たちがもつと互いを理解しようとする。それが本当の意味で「人を大切にする世界」に繋がるのだと、信じています。

未熟な私ですが、そんな私にでも言えることは、

「我愛中国」

私は中国が大好きです。